



PlusUltra 創造する未来へ

平成26年5月9日(金)、待望の新病院が開院

新病院は、平成26年5月9日(金)に開院(外来診療の開始)しました。既に、新病院建物は昨年11月末に竣工しましたが、開院に向けて、さまざまな準備を進めてきました。

記念行事の開催

新病院開院記念行事を開催し、開院への感謝と建物や機能の紹介を行いました。4月11日(金)の開院式には、大村秀章愛知県知事をはじめ、来賓、本学関係者、計約450名の臨席もいただきました。12日(土)、13日(日)には、医療関係者・近隣住民などの皆さまをお招きした内覧会を開催し、約2,500名が参加されました。

入院患者さんの引越しと物品の移転

入院患者さんの新病院への引越



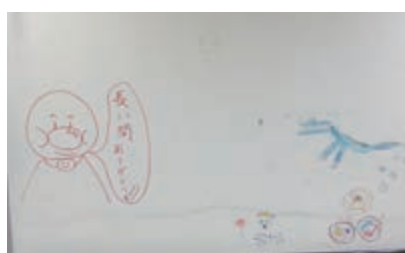
日差しがまぶしいため、日傘で日よけ対策!!



しは、4月30日(水)に重症患者さん9名、5月1日(木)に一般患者さん323名を行い、計画どおり無事完了しました。

患者さんの「安全な移送を第一」として、綿密な移送計画の策定・事前調整を行い、模擬患者を使ったリハーサルも3回実施しました。一般患者さんの移送日には、総勢1,100名の職員、医学生、看護学生が参加し、移送には、医師を中心に106班を編成。万全の態勢を整えました。

また、小児病棟(8A)の患者さんからは、旧病棟の壁に病院への温か



小児科の患者さんから感謝のメッセージ

いメッセージをいただきました。

医療機器、ベッドなどの物品は計画的に移転を始め、本格的な移転は引越し期間の初日の4月29日(火)より行い、5月3日(土)にはほぼ完了しました。

いよいよ開院

開院に向けては、新病院を想定した運用検討や大小織り交ぜた多くのリハーサルやトレーニングを実施。開院初日は、1,758名の外来患者さんが来院されましたが、事前準備を整え、案内係を豊富に配置したことで、大きな混乱もなく終了しました。

愛知医科大学病院は、新病院建設を契機に、より良い医療の提供に、さらに邁進してまいります。今後とも宜しくお願いいたします。

熱性けいれんの話

小児科部長 奥村彰久



熱性けいれんとは

熱性けいれんは高い熱に伴ってけいれんが起きるものです。ただし、急性脳炎や細菌性髄膜炎など脳自体に炎症があったり、元来ひきつけを起こす性質がある全身疾患に伴うものは、熱性けいれんに入れません。日本では6歳未満の子どもの5%くらいに起きるといわれており、ありふれた疾患です。

熱性けいれんの症状

目を見開いたり白目になったりして、顔色が悪くなり、手足に力が入った状態になるのが一般的です。このような状態が数分程度続きます。熱性けいれんは単純型と複雑型とに分類されています。単純型とは、左右対称のけいれんで、持続が短く(20分未満)、1回の発熱の間に1回だけ起きるものをいいます。これに当てはまらないものを、複雑型といいます。

熱性けいれんとてんかん

てんかんの子どもについて調べると、以前に熱性けいれんを持つ割合が一般人口よりも高率です。しかし、これは熱性けいれんがて

んかんの原因になったわけではありません。てんかんという病気が、乳幼児期には熱性けいれんとして現れているのです。したがって、熱性けいれんを予防しても後にてんかんになる確率は変化しないと考えられます。

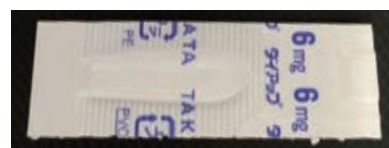
熱性けいれんの予防

熱性けいれんを目撃した親御さんは、お子さまが死んでしまうのではないかという恐怖感をお持ちになるのが普通です。したがって、熱性けいれんを何とか予防したいと思われるのは当然であると思います。

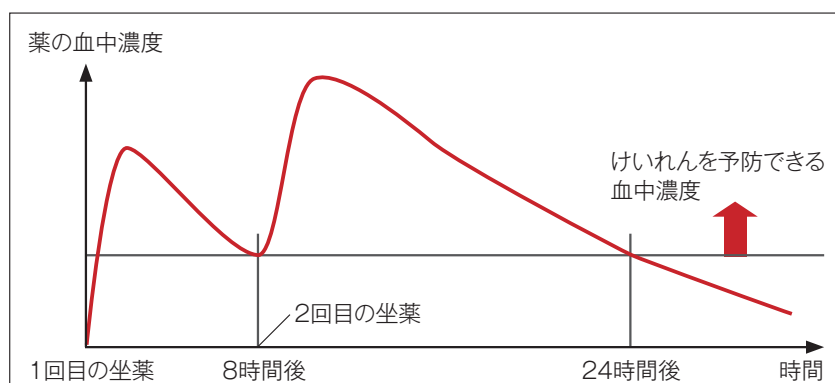
ダイアアップ®坐薬(図1)という抗てんかん薬の坐薬によって、熱性けいれんをある程度予防することが可能です。一般的な使い方は、38℃以上の発熱に気づいたときに1回、その8時間後にもう1回使うというものです(図2)。しかし実際に

は、坐薬が間に合わなかったり、うまく使ってもけいれんが起きたりすることはあります。ダイアアップ®坐薬の効果は、熱性けいれんの確率が半分になる程度とお考えください。

しかし、短い熱性けいれんは回数が多くても後遺症が残ることはないとされています。何が何でも熱性けいれんを起こしてはいけないうと極端に怖がってしまうことは好ましくありません。ただし30分を超えるような長いけいれんは、側頭葉てんかんという重いてんかみを稀に起こすと推定されます。5分以上けいれんが止まらない場合は、すぐに病院を受診してください。



〔図1〕ダイアアップ®坐薬
4mg・6mg・10mgの3種類がある。
図は当院採用の6mg



〔図2〕ダイアアップ®の効果
ダイアアップ®を8時間おきに2回使用すると、24時間はけいれんを予防する効果がある

新病院で強化された リハビリテーションセンター

新病院3階のリハビリテーションセンターは、屋内施設と屋上リハビリテーション庭園(写真)を有し、リハビリテーション科専門医4名、理学療法士23名、作業療法士9名、言語聴覚士3名、看護師3名が、整形外科、脳卒中センター、神経内科、脳神経外科、痛みセン



ター、循環器内科などと協働して診療しています。

総合リハビリテーションの 考え方にもとづく診療

「機能回復訓練」至上主義ではなく、生活全体の向上をめざす総合的なリハビリテーションを行います。生活機能の診断・評価にもとづいて、動作練習、運動療法、薬物療法、補装具・義肢の処方・製作、福祉・介護サービス活用の援助など多彩な手段を提供します。

ICUから集中リハビリテーション 病棟まで高密度に対応

疾患群別チーム(脳血管、運動

器、廃用症候群)が入院直後から高密度の治療を行います。脳卒中、神経疾患、脳神経外科・整形外科術後の入院患者さんには44床の集中リハビリテーション病棟で早期自立を図り、心疾患や呼吸器疾患、外科手術後等の患者さんにはICUからリハビリテーションを開始します。外来では、手足の筋肉のつっぱりに対するボトックス療法、心大血管疾患・スポーツ障害・小児などの専門的リハビリテーションを行って

います。



ニュークックチル システムの導入

新病院では食事の安全確保をめざし、新しい調理方式(ニュークックチルシステム)を導入しました。

このシステムは、加熱調理したものを直ちにチルド(0~3℃)状態に冷却し、保存。チルド状態のまま

食器に盛付け、一人分ずつトレイにセットし、喫食前に配膳車(再加熱カート)内で温かい料理のみが温められます。その後、患者さんに食事を提供します。

メリットは?

調理後の急速冷却や加熱時の中心温度管理の徹底により、食事

の安全性が向上します。また、温かい料理は温かく、冷たい料理は冷たいままの状態で食べていただけます。

栄養相談のご案内

栄養部では各疾患に関する食事療法の相談をお受けしています。栄養相談は予約制ですので、ご希望の方は主治医にご相談ください。

入院・外来個人相談

月~金曜日

9:45(外来のみ)

10:30、11:15、13:45、14:30、

15:15(入院・外来両方)

糖尿病教室

毎週火曜日14:00~15:00

場所:10A病棟指導室

HACCP(食品の衛生管理の方式)に準拠した衛生管理のもと調理。

HOT65℃以上、
COLD10℃以下の
適温で提供します。



健康情報室アイブラリーからのご案内

この度、新病院の2階コーヒーショップの隣に、患者さんのための図書室が開設されました。愛称は「アイブラリー」です。職員から名称を募集し、多数の応募のなかから決定しました。“愛知医科大学病院”と“ライブラリー”を合わせた造語です。

健康情報室アイブラリーは、医療情報を中心とした患者さんのための図書室です。医療の基本となる患者さんの「知る権利」と治療を選択できる「自己決定権」を支援するということを形にしました。

病気・健康・からだに関する書籍、インターネット、パンフレット・DVDなどが用意されています。看護師・図書館司書・ボランティアさんが協同して、患者さん・ご家族が病気や治療、健康に関する医学的知識を得て、主体的に治療に参加されるお手伝いができるように努めています。情報提供を行う場としての機能と同時に、患者さんの癒しの空間になることを願って環境づくりをしています。

今後は医師・看護師・薬剤師などとアイブラリーとで連携し、医療従事者と患者さんを結ぶ架け橋となるようにセミナーの開催や、患者さんにこんな文献を紹介してほしいなど、医師からの要望にも応えていきたいと考えています。

お気軽にご利用くださいますよう、スタッフ一同お待ちしております。

開室時間 平日10:00~16:00



たくさんのボランティアさんが活動中!

当院では、多くのボランティアさんの活動により、患者さんに温かさや癒し、安らぎのある心地よい空間を作り出しています。新病院では、新たに37名のボランティアさんが活動を開始され、1階のボランティアセンターでは、毎日ボランティアさんたちの笑顔があふれています。

ボランティアさんの数は?

当院では、団体と個人ボランティアさんにご登録いただき、約130名の方がさまざまなボランティア活動をしています。

一緒に案内ボランティアをしませんか?

当院には、36名の案内ボランティアさんがいらっしゃいます。

新病院へ初めてお越しになった患者さんは、「どこへ行ったらいいの? どうしたらいいの?」など、戸惑われる

方が多くいらっしゃいます。そんなとき案内ボランティアさんには、患者さんへ優しいお声かけと丁寧な案内をしています。

案内ボランティアに興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。



お問い合わせ先

ボランティアセンター 中島
TEL 0561-62-3311 (内線78333)
FAX 0561-63-3208
E-mail volunt@aichi-med-u.ac.jp

腎移植は身近な治療です。

腎移植外科

日本の腎移植は
年間1,500人以上

腎移植外科は平成24年4月に開設され、慢性腎不全に対する唯一の根本的治療として腎移植を行っています。「腎臓が悪くなった先には透析療法しか道がない」「腎移植は知っているが自分には関係ない話だ」と考えていませんか？腎移植は、現在日本では年間1,500人以上が受けている非常に身近な治療法で、しかもその90%以上が生体腎移植という健康な方から一方の腎臓を分けてもらう方法です。「腎臓が一つになっても大丈夫かな？」「血液型が違うから…」「夫婦とは

いえ他人だから…」と考えていませんか？腎提供において血液型や血縁は問題となりません。また提供後の生活もほとんど変わりません。慢性腎不全で透析を行っている方や近々透析が必要と言われている方、腎移植は身近な治療法です。ぜひ気軽にご相談にいらしてください。お話だけでも歓迎いたします。

当科ではこれまで50名の方が生体腎移植を受けられました。下記の写真は、「長久手文化の家」で患者の会を開催し、情報交換・勉強会を行ったときのものです。このように当科では、移植後も患者さんと医師・看護師・栄養士・コーディネーターたちが一体となった医療の提供をめざしております。



相談してみませんか。

医療福祉相談部

療養生活のお悩みにお答えします

医療福祉相談部は、平成26年5月1日に中央診療部門となりました。職員は社会福祉士・精神保健福祉士の有資格者です。

業務内容は、厚生労働省の医療ソーシャルワーカー業務指針にもとづき、健康保険や福祉制度等の利用援助のほか、身寄りのない方への身元保証や意思決定の援助、虐待ケースへの対応など療養中のさまざまな問題に対して相談援助を行います。

近年、医療機関の機能分化が進み、患者さんの病状に合わせた

医療機関の選択が求められています。当院においても急性期治療が終了した方は、一般病棟や回復期リハビリテーション病棟などへ転院し治療を継続していただいております。また、「かかりつけ医」による在宅療養を選択される方や、高齢で自宅療養が難しい場合は、有料老人ホームなどに入居され、訪問診療と介護サービスを利用して療養生活を送られる方も多くなっております。

当部門は、福祉制度の利用と医療連携や介護連携を通して、その人がその人らしく療養生活が送れるようお手伝いをさせていただきます。相談援助を行う部門として

微力ではありますが、鋭意努力してまいります。どうぞお気軽にご相談ください。

療養生活のご相談

場 所 中央棟1階14番
総合相談室
相談時間 月～金 9:00～12:00
13:00～17:00



Take a step forward

すべての患者さんが 薬を適切に使用できるように。

野村知世・稲本千晶

薬剤部 平成24年度入職



薬剤部が担う さまざまな仕事

平成18年度より、薬学部は6年制になりました。私たちは6年制薬学部を卒業した初めての薬剤師です。愛知医科大学病院で2カ月半の学生実習を行い、病棟での薬剤師の活動を実際に体験し、患者さんともっと話がしたいと思い、当院に就職しました。

当院薬剤部には、現在64名の薬剤師が在籍し、調剤、注射調剤、注射薬混合調製、医薬品情報提供、製剤調製、病棟業務、チーム医療など、さまざまな業務を行っています。

そのなかで私たちは主に調剤業務、注射調剤業務を担っています。ここでは、医師から処方された薬を調製し、または取り揃え、患者さんにお渡しします。その際には、出された処方をチェックし、ときには医師に問い合わせをして、患者さんに適切な薬が正しく処方されるよう注意して

います。患者さんと直接お話する機会は少ないですが、病院業務のなかでも非常に重要な業務です。

当院薬剤部の特徴

また、当院薬剤部の特徴として、病棟業務が挙げられます。数年前より病棟に専任薬剤師を配置しており、より専門性を持った薬剤師が医師、看護師と連携して医療に携わっています。私たちも調剤業務のかたわら病棟に赴き、患者さんに処方された薬の薬効、飲み方、起こり得る副作用、注意点などを説明したり、医師・看護師へ薬の情報提供をしています。

処方提案という 大切な仕事

これからの薬剤師の重要な業務の一つに処方提案があります。患者さんや看護師から得られた情報から、病気に伴う症状や治療による副作用を予防したり、軽減させる治療（支持療法）を医師に提案することもあります。実際に病棟で患者さんとお話すると、「この薬を飲んだら良くなった」、「これよりこっちの方が合ってる気がする」、「この薬にかわってからいまいち」、「この薬は効くんだけど何だか調子が出

ない」など、率直に話してくださり、患者さんに教えていただくことはとても多いです。なかには「どうかしてほしい」と切実に訴えられる患者さんもおられ、いろいろな資料を探し、先輩薬剤師に知恵を借りながら、医師に処方提案をして、患者さんに「楽になったよ、ありがとう」と言っていたいたときはとてもうれしかったです。

薬剤師の視点から 電子カルテを活用

当院もこの5月に新病院が開院し、電子カルテが全面稼働しました。それに伴い、調剤室でも患者さんの情報が得られるようになっていきます。まだまだ未熟ではありますが、ときにカルテを閲覧し、薬剤師の視点から患者さんや、医療スタッフに、薬の知識と情報をフィードバックし、すべての患者さんが薬を適切に使用できるように、支援していきたいと思っています。



新病院開院にあたっての患者さん、職員の生の声

患者さんの声

- 待合が広くなり、呼出の声もなくなり静かな病院になったので、ゆったりと過ごせる。(70代女性)
- 旧病院は、売店に隣接して自販機コーナーがあり休憩することができたが、今は離れた場所にあるので売店内に作るなど検討してほしい。(70代女性)
- NAVITで定期的に連絡が来るため、現在の待ち状況などがわかるので助かります。(50代男性)
- NAVITの案内がわかりにくい。結局自動精算機の前で計算が終了するのを待ってしまう。(80代男性)
- 雨天時にも駐車場から濡れずに病院に入れるのはすごく良い。(30代男性)

職員の声

- 新しい病院になって患者さんにゆったり待っていただけるようになり、診察待ちの患者さんの負担が少なくなった。(医師 50代男性)
- バックヤード機能が充実したため、患者さんと職員の動線が交差しなくなり、効率的に動くことができるようになった。(技師 30代男性)
- エレベーターで病棟に直結しているので、移動しやすい。スタッフ用エレベーターの待ち時間がもう少し短くなるとうれしい。(薬剤師 30代男性)
- 休憩室が以前より広くなり、外の景色も見えるようになったためリフレッシュできる。(看護師 30代女性)

関連施設からのお知らせ

長引く咳が 気になる方へ

愛知医科大学メディカルクリニック

咳はカゼを引いたときに誰でも経験する症状ですが、時には3週間以上続くこともあります。カゼが少し長引いている程度に考えていると、実は全く別の病気(咳喘息、結核、肺癌、逆流性食道炎、慢性副鼻腔炎、ときに心不全など)が原因だったりすることがあります。

愛知医科大学メディカルクリニックでは、呼吸器およびアレルギー専門医や循環器、消化器専門医が常駐するほか、耳鼻科診療も週3回行っており、長引く咳が気になる患者さんに対して的確な診断および治療を行う体制を整えています。

胸部写真、血液検査、心電図、喀痰検査はもちろんのこと、高精度のCT検査



64列マルチスライスCT装置

や肺機能検査、気道過敏性検査、呼気ガス一酸化窒素濃度の測定や気管支・胃内視鏡検査、心臓超音波検査など、咳の原因となるあらゆる疾患に対する診断と外来診療が可能です。たとえ軽くても咳が長引く場合は、ぜひ精密検査を受けられることをお勧めします。受診を希望される方は下記へお問い合わせください。



総合肺機能検査システム



呼気ガス一酸化窒素濃度測定装置

〒461-0005
名古屋市東区東桜二丁目12番1号
TEL 052-931-2261
FAX 052-931-4841



愛知医大 クリニック 検索

新病院建設へのご協力をお願いいたします。

皆さまのおかげをもちまして、平成26年5月9日に新病院が開院いたしました。新病院は多くの先端医療機器を備え、高機能で安心・安全な医療を提供し、地域の皆さまから信頼される病院をめざします。今後さらなる飛躍を遂げるため、募金に対する格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



学校法人 愛知医科大学
理事長 三宅養三

募金要項

- 1 募金目的** …… 愛知医科大学新病院建設資金
- 2 募金目標額** …… 10億円
(新病院建設を含むキャンパス整備の総事業費は、約390億円)
- 3 募金1口の金額** …個人:10,000円
法人・団体:50,000円
※できるだけ多数口のご協力をお願い申し上げます。
※多数口の場合は、分割による払込も可能です。
- 4 免税の取扱い** …… 本学は、所得税の税額控除が適用される対象法人としての証明を受けております。
- 5 募金の期間** …… 平成23年3月～平成28年3月(5年間)

お問合せ先

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室
TEL 0561-63-1062 FAX 0561-62-4866
E-mail sakin@aichi-med-u.ac.jp

愛知医科大学病院の 理念と基本方針

理念

診療・教育・研究のすべての領域において、医療を基盤とした社会貢献を目指す

- 社会の信頼に応えうる医療機関
- 人間性豊かな医療人を育成できる教育機関
- 新しい医療の開発と社会還元が可能な研究機関

基本方針

- 人間性を尊重した患者中心の医療の提供
- 安全で良質な医療の実践
- 思いやりと温もりのある医療人の育成
- 先進的医療技術の開発・導入・実践の推進
- 災害・救急医療への積極的な取り組み
- 地域医療連携の推進及び地域医療への貢献

病院ホームページをリニューアル!!

平成26年5月9日の開院に伴い、病院ホームページも一新しました。新病院の機能を詳しくご紹介するほか、動画にて新病院内の外来エリアはもちろんのこと、病室や最新医療機器を余すことなくご紹介しています。ぜひご覧ください。



愛知医大病院 検索

編集後記

昨年、病院広報誌「たちばな」をリニューアルしました。そして、本年5月には待望の新病院も開院し、フレッシュな話題がいっぱいです。広報誌部会では、病院を支える多くの方々に記事をお願いし、読者の皆さまに愛知医科大学病院のことを知っていただくとともに、親しみも感じていただけるように努めております。

今回も、お役立ち情報満載ですので、ぜひご一読ください。

病院広報委員会広報誌部会長 春日井邦夫

編集・発行 愛知医科大学病院 病院広報委員会

TEL 0561-62-3311 FAX 0561-63-3208

編集協力 プロジェクトリンク事務局